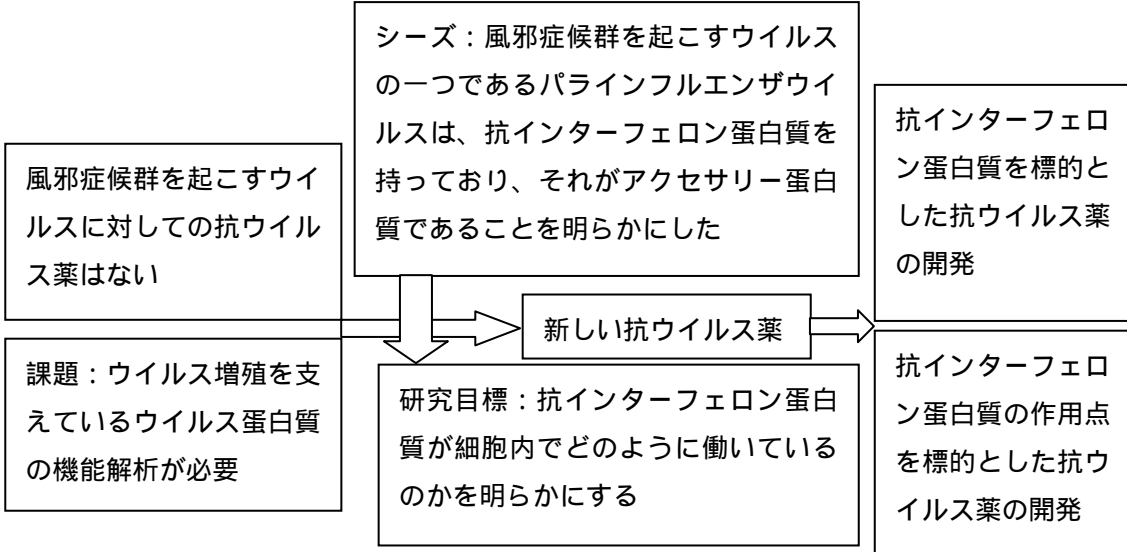


福井大学研究シーズデータ

名前・学部・学科等	後藤敏・医学部・病因病態医学講座・微生物学領域				
研究情報の分類	シーズ	特許	新製品	分析/解析	調査
研究分野の分類	13	以下の18項目から一つ選び番号を左欄に記入する。 1.物理系 2.エネルギー系 3.化学系 4.バイオ系 5.環境系 6.海洋・宇宙系 7.交通系 8.機械系 9.材料系 10.電子・電気系 11.情報系 12.建築・建設系 13.医学系 14.健康・保険系 15.看護・福祉系 16.農業・林業系 17.水産・畜産系 18.その他			
重点研究分野への該当	I T	ナノ	バイオ	環境・エネルギー	その他
キーワード(5個以内)	ウイルス	アクセサリー 蛋白質	インターフェ ロン	抗インターフ ェロン蛋白質	免疫回避
研究情報の名称	パラインフルエンザウイルスの免疫回避機構の研究				
<p>概要</p> <p>呼吸器感染症（風邪症候群）は多種のウイルス群によって生じる。そのうち、ひとつのグループを形成するパラインフルエンザウイルスは、インターフェロン産生を抑制すると同時に、感染細胞のインターフェロン感受性を低下させ、宿主の初期免疫応答を多様な局面で抑制する。さらに、感染細胞の細胞死を抑え、ウイルス増殖の場である細胞の代謝活動を長時間維持する機能も備えている。これらの多彩な機能は、ウイルスゲノムにコードされているアクセサリー蛋白質が担っている。当該蛋白質は、病原性発現に深くかかわっており、アクセサリー蛋白質を発現できないウイルスは、弱毒化する。現在、アクセサリー蛋白質が細胞内のどの分子に作用し抗インターフェロン活性を発揮しているのかを分子レベルで解析している。</p> <p>応用例</p> <p>アクセサリー蛋白質そのもの、あるいはその作用点をブロックする薬剤は、新しいタイプの抗ウイルス薬となる可能性がある。</p>					
<p>グラフィカルな社会還元までのチャート</p>  <pre> graph LR A[風邪症候群を起こすウイルスに対しての抗ウイルス薬はない] --> C[新しい抗ウイルス薬] B[課題：ウイルス増殖を支えているウイルス蛋白質の機能解析が必要] --> C C --> D[研究目標：抗インターフェロン蛋白質が細胞内でどのように働いているのかを明らかにする] D --> E[抗インターフェロン蛋白質を標的とした抗ウイルス薬の開発] D --> F[抗インターフェロン蛋白質の作用点を標的とした抗ウイルス薬の開発] </pre>					
関連している企業・大学・団体等	なし				
関連する特許1件	なし				
関連する論文1編	Bin Gotoh, Takayuki Komatsu, Kenji Takeuchi, and Junko Yokoo. Paramyxovirus strategies for evading the interferon response. Rev. Med. Virol. 12, 337-357. 2002.				